

第1回 静岡市市民活動促進協議会（第7期） 会議録

- 1 開催日時 令和元年8月30日（金） 15時00分～17時15分
- 2 開催場所 静岡市役所静岡庁舎本館3階 第3委員会室
- 3 出席者 <出席委員>山岡会長、山本副会長、池田委員、伊藤委員、片井委員、川村委員、北川委員、木下委員、近藤委員、伴野委員、深野委員、弓削委員
<事務局>深澤市民局長、山口市民自治推進課長、佐々木係長、長島主査、中村主任主事

4 傍聴者 0人

5 議 題

- (1) 会議スケジュールについて
- (2) 静岡市市民活動促進基本計画の進行管理について
 - ① 第3次静岡市市民活動促進基本計画
 - ② 市民活動促進基本計画の中間見直しに関する答申
 - ③ 市民活動促進基本計画の進ちょく状況調査報告
- (3) 静岡市市民活動センターのあり方検討について

6 議 事

- (1) 会議スケジュールについて

【事務局説明】

(伊藤委員)

今回オブザーバーとして市民活動センターのセンター長がいないのは、センターのあり方検討が議題のためか？

(事務局)

委員ご指摘のとおり。当協議会の議論の際、必要に応じて参加を依頼する。

- (2) 静岡市市民活動促進基本計画の進行管理について

【事務局説明】

(木下委員)

市民意識調査の対象は？

(事務局)

毎年度、広報課が実施している市民意識調査を利用して、平成 27 年度と 30 年度に市民活動に関する調査を実施した。平成 27 年度は、5,000 人無作為抽出（20 歳以上）、平成 30 年度は 3,000 人無作為抽出（18 歳以上）。

(深野委員)

市民活動センターの来館者数の目標値、65,000 人の根拠は？

(事務局)

毎年度、来館者数の統計を取っている。計画冊子 15 ページ「1 知らせる《交流の場づくり》」の成果指標として数値を設定している。計画策定時点の利用者数をもとに設定した。今後は数字だけでなく質でも検討できればよい。

(山本副会長)

今後は数字が微増のなかで、新規獲得等の率などを高めるなど中身をもみることも大切。時代の流れの中で観察していかなければならない。行政の指標としてはこれが精一杯。

(深野委員)

裾野センター運営。毎年来館者数をクリアしても「来年は 2 割増し」などいわれ根拠もない。人口減少のなかで増加は難しい。数字で評価しなければならないのは理解できるが、今後の評価の仕方等は検討していきたい。

(川村委員)

来館者数は、のべ人数か？

(事務局)

そのとおり。

(川村委員)

女性会館では新規来館者数が指標の一つになっていたため苦勞している。市民の課題解決につながる指標が必要だと思う。指標を作っていくときには現場の声も必要。

(伴野委員)

センターの利用については、大きな団体は使わないし、小さい団体は生涯学習施設を使うだろう。ここからネットのアクセス数を指標は今後重要になっていくと思うが、PRが足りないように感じる。

団体数、事業数の数字はあるが、その中の会員数やボランティア数が見えてくると市民活動が促進されていると言えると思う。

(事務局)

ここからネットのユーザー数、ページビュー数は着実に増えている。公開当初と比べユーザー数は3倍以上であり、今年6月に開設当初のページビュー数を超えた。

第2次計画ではボランティア数を指標としていたが、ボランティア保険の登録数(社協)を使っていた。しかし、ボランティア保険で把握できるのは全体の一部であり、正確な数字の把握は難しい。

会員数は、団体向けアンケートで調査しなければわからず、回答が届いた団体分しか把握ができない。

(山本副会長)

ボランティア数、会員数は団体の事務局に直接聞いても良いと思う。

(3) 静岡市市民活動センターのあり方検討について

【事務局説明】

(北川委員)

H27 事務事業総点検で清水センターの利用者人数少ないという指摘があるが？

(事務局)

番町センターと清水センターでは施設規模が全く違う。この指摘は参考にならない。

(山岡会長)

市民活動という観点からも疑問。むしろサテライトがあってもいいくらいではないか。

(近藤委員)

2施設を1施設にということで検討しているが、サテライトを作るとことは検討しているか？

(事務局)

昨年6月に南部図書館2階に「みなくる」が開設された。広いオープンスペースがあり、

市民活動も行えるが、市民活動の相談機能はない。福祉総務課が所管しており、社会福祉協議会に委託している。

(近藤委員)

センターの一番の特徴は、「みんなで作り上げる」こと。みなくるにはその機能はない。

(深野委員)

何のための市民活動センターなのか。1つに減らすことにより市民活動が衰退することが考えられていないため、行革の指摘はおかしいのでは。それをアピールしてむしろ駿河区にサテライトを新たに開設してほしいくらい。

(山岡会長)

2つあるからこそ市民活動が育ってきたと言える。

(池田委員)

利便性を考えると生涯学習センターが近くにあり便利。わざわざ市民活動センターまで行くのか。ソフトの支援が求められる。生涯学習センターとの棲み分けはどのように考えているか？

(事務局)

生涯学習センターは生涯学習をする市民に使われており、市民活動を行う場所がなかった経緯から市民活動センターができたと聞いている。ただ、現在は生涯学習センター以外にも会議室などは借りられるような環境であるため、今後どうしたらいいかというのは次の計画策定までに議論を深めていきたい。

(川村委員)

市民活動のセンターとしての機能について考察を深める必要がある。現場を見ていて、生涯学習センターを利用する人は、サークル活動や趣味など、自己実現に充足感を感じている人が多い。地域活動、市民活動の「拠点」としての意識が必要。現状では、広報等やればやるほど市民にとって生涯学習センターとの区別がつかなくなるのではないか。

(近藤委員)

清水の生涯学習施設はソフトがない。団体同士を繋げられるのは市民活動センターならでは。生涯学習センターと市民活動センターでは存在の意義が違う。

(山岡会長)

生涯学習と市民活動センターの線引きは難しい。趣味の活動から市民活動に発展することもある。

(伴野委員)

活動自体は市民活動センターだけではまかなえない。センターは会計のアドバイスや他団体の紹介まで突っ込んで支えてくれている。

ここからネットで非公開の団体はどういう団体なのかと思う。自治会連合会、防災協会、体育協会とか参加した講座もあるがなかなかたどり着けない。ここからネットで包括的に団体を紹介してもらえると助かる。

(伊藤委員)

統合の必要なく、個別にやればよい。行革として予算が削られていくのも理解できる。清掃業務をボランティア活動として賄うとかの工夫が今後必要になるのではないか。

(片井委員)

市民活動をしている人だけでなく、していない人をどうやって引き込むか。近くでできる場所を増やすことも必要だし、中心となるセンターも必要。長田は車以外での交通手段がない。学校の空き教室等、場所は工夫できるのではないか。